

第4章 医師・歯科医師・薬剤師統計

1 医師

平成30年末現在の医師の届出数は2,050人で、前回調査時の平成28年から75人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,947人で前回に比べて68人増加し、総数の95.0%を占めた。介護老人保健施設の従事者は31人で前回と比べ1人減、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は56人で前回に比べ1人減、その他の者は16人で前回に比べ9人増であった（表4-1）。

表4-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成30年	平成28年		平成30年	平成28年
総 数	2,050	1,975	75	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,947	1,879	68	95.0	95.1
病院の従事者	1,330	1,245	85	64.9	63.0
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	26	29	△ 3	1.3	1.5
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	935	845	90	45.6	42.8
医育機関附属の病院の勤務者	369	371	△ 2	18.0	18.8
臨床系の教官又は教員	200	207	△ 7	9.8	10.5
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	169	164	5	8.2	8.3
診療所の従事者	617	634	△ 17	30.1	32.1
診療所の開設者又は法人の代表者	442	457	△ 15	21.6	23.1
診療所の勤務者	175	177	△ 2	8.5	9.0
介護老人保健施設の従事者	31	32	△ 1	1.5	1.6
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	4	6	△ 2	0.2	0.3
介護老人保健施設の勤務者	27	26	1	1.3	1.3
医療施設・老人保健施設以外の従事者	56	57	△ 1	2.7	2.9
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	23	22	1	1.1	1.1
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	5	5	0	0.2	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	28	30	△ 2	1.4	1.5
行政機関の従事者	14	19	△ 5	0.7	1.0
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	11	10	1	0.5	0.5
産業医	3	1	2	0.1	0.1
その他の者	16	7	9	0.8	0.4
その他の業務の従事者	1	-	1	-	-
無職の者	15	7	8	0.7	0.4
不詳	-	-	-	-	-

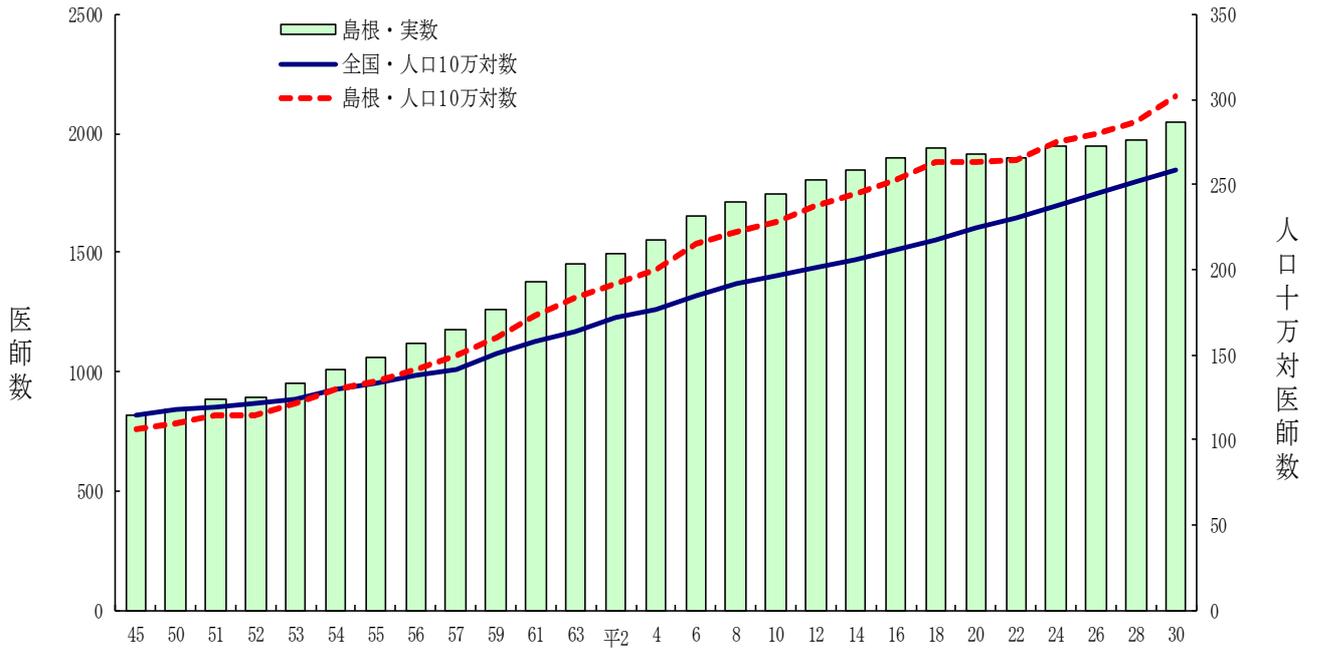
主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く411人で21.1%を占める。ついで整形外科が131人で6.7%、臨床研修医が123人で6.3%、精神科が121人で6.2%、消化器内科（胃腸内科）が107人で5.5%を占める。平成28年と比較すると整形外科や麻酔科などが増加した。一方、最も減少したのは内科で19人減、次いで消化器外科（胃腸外科）の17人減となっている（表4-2）。

表 4-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

	平成30年		平成28年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,947	100.0	1,879	100.0	68
内科	411	21.1	430	22.9	△ 19
呼吸器内科	41	2.1	34	1.8	7
循環器内科	67	3.4	65	3.5	2
消化器内科（胃腸内科）	107	5.5	98	5.2	9
腎臓内科	20	1.0	18	1.0	2
神経内科	47	2.4	49	2.6	△ 2
糖尿病内科（代謝内科）	33	1.7	27	1.4	6
血液内科	21	1.1	23	1.2	△ 2
皮膚科	48	2.5	51	2.7	△ 3
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	7	0.4	8	0.4	△ 1
感染症内科	1	0.1	2	0.1	△ 1
小児科	97	5.0	100	5.3	△ 3
精神科	121	6.2	117	6.2	4
心療内科	1	0.1	1	0.1	0
外科	91	4.7	64	3.4	27
呼吸器外科	13	0.7	14	0.7	△ 1
心臓血管外科	18	0.9	19	1.0	△ 1
乳腺外科	15	0.8	14	0.7	1
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科（胃腸外科）	10	0.5	27	1.4	△ 17
泌尿器科	48	2.5	47	2.5	1
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	37	1.9	37	2.0	0
整形外科	131	6.7	124	6.6	7
形成外科	14	0.7	12	0.6	2
美容外科	1	0.1	1	0.1	0
眼耳鼻いんこう科	68	3.5	68	3.6	0
小児外科	44	2.3	47	2.5	△ 3
産婦人科	6	0.3	5	0.3	1
産科	63	3.2	65	3.5	△ 2
婦人科	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	7	0.4	6	0.3	1
放射線科	31	1.6	23	1.2	8
放射線科	49	2.5	46	2.4	3
麻酔科	83	4.3	73	3.9	10
病理診断科	13	0.7	11	0.6	2
臨床検査科	3	0.2	4	0.2	△ 1
救急科	19	1.0	16	0.9	3
臨床研修医	123	6.3	95	5.1	28
全科	5	0.3	2	0.1	3
その他	31	1.6	29	1.5	2
不詳	2	0.1	7	0.4	△ 5

平成30年の人口10万対医師数は301.5人で、前回の286.2人に比べて15.3人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図4-1）。

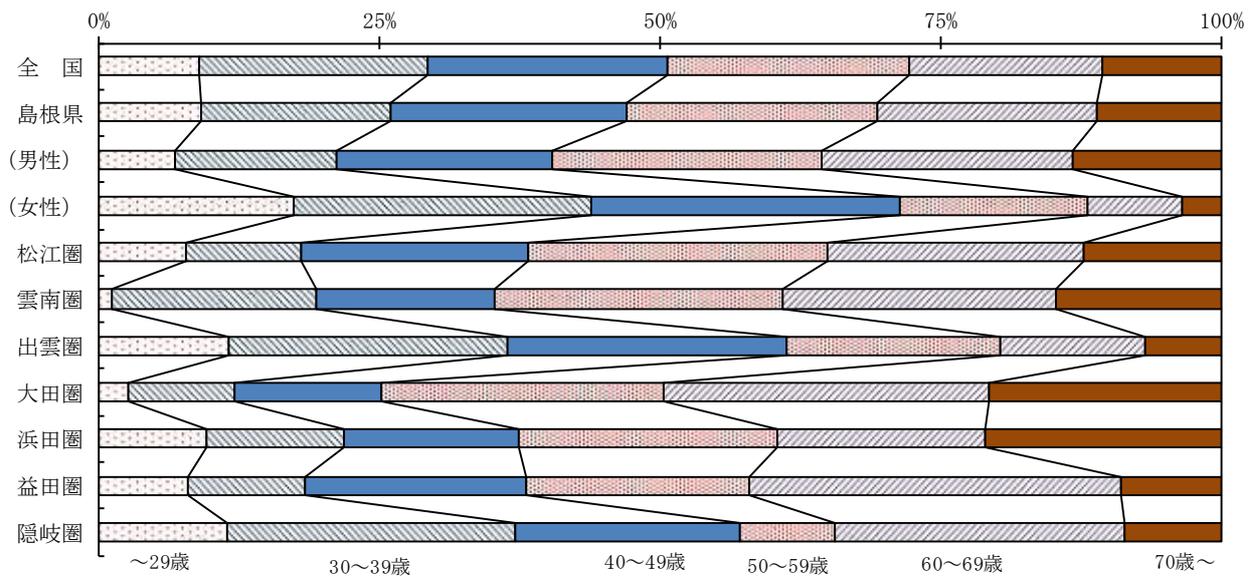
図 4-1 医師数及び人口 10 万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では 50 歳代が 22.4%、40 歳代が 21.0%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、30 歳代と 70 歳以上の割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は 50 歳代が最も多く 23.9%で、ついで 60 歳代が 22.4%を占める。女性は 40 歳代が最も多く 27.5%で、ついで 30 歳代が 26.5%を占める。

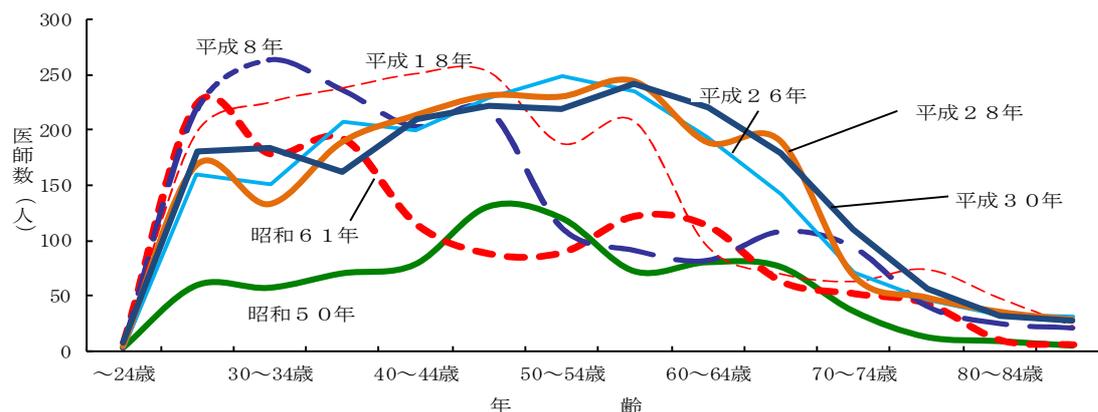
2 次医療圏別に見ると、出雲圏及び隠岐圏で 20 歳代及び 30 歳代の割合が高い。大田圏では 50 歳以上が 74.8%を占める (図 4-2)。

図 4-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を 10 年ごとにみると、昭和 50 年は 45~49 歳、昭和 61 年は 25~29 歳、平成 8 年は 30~34 歳、平成 18 年は 45~49 歳が最も多い年齢階級となっている。平成 30 年をみると最も多い年齢階級は 55~59 歳となっている (図 4-3)。

図 4-3 医師の年齢構成の年次推移



2 歯科医師

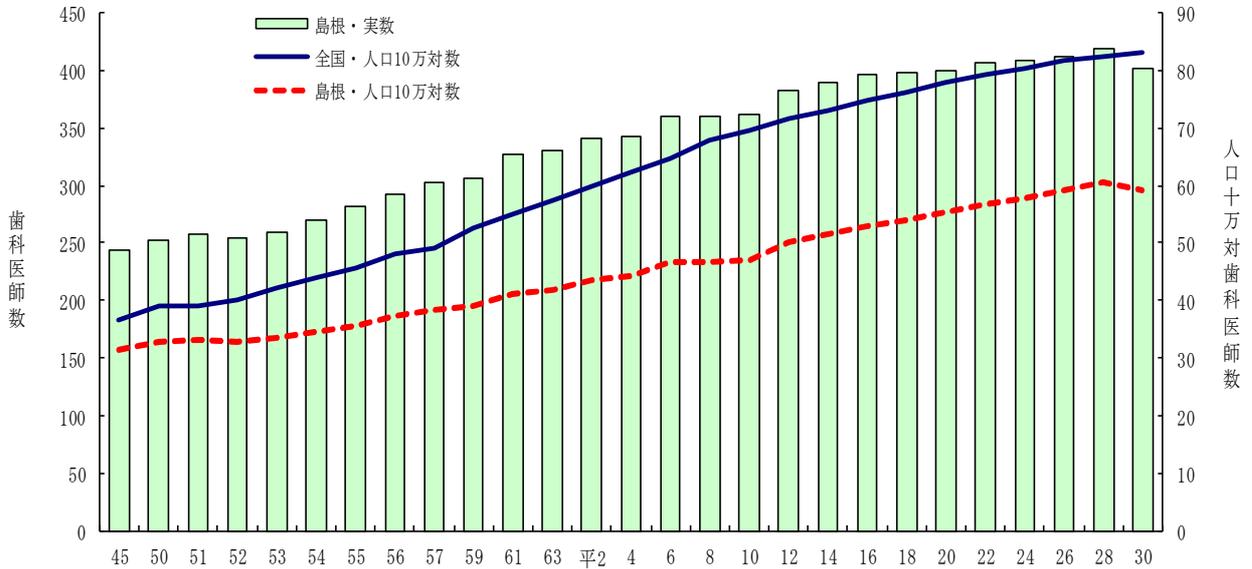
平成30年末現在の届出歯科医師数は401人で、前回調査時の平成28年から18人減少した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で95.3%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が60.3%で、診療所の勤務者が26.2%である。平成28年と比べると、病院の従事者は2人減少（構成割合は0.1%減少）、診療所の従事者は15人減少（構成割合は0.1%増加）した（表4-3）。

表 4-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成30年	平成28年		平成30年	平成28年
総 数	401	419	△ 18	100.0	100.0
医療施設の従事者	382	399	△ 17	95.3	95.2
病院の従事者	35	37	△ 2	8.7	8.8
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	27	27	0	6.7	6.4
医育機関附属の病院の勤務者	8	10	△ 2	2.0	2.4
臨床系の教官又は教員	2	4	△ 2	0.5	1.0
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	6	6	0	1.5	1.4
診療所の従事者	347	362	△ 15	86.5	86.4
診療所の開設者又は法人の代表者	242	252	△ 10	60.3	60.1
診療所の勤務者	105	110	△ 5	26.2	26.3
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	4	5	△ 1	1.0	1.2
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	1	1	0	0.2	0.2
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	1	2	△ 1	0.2	0.5
行政機関又は保健衛生施設の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	-	-	-	-
その他の者	15	15	0	3.7	3.6
その他の業務の従事者	3	4	△ 1	0.7	1.0
無職の者	12	11	1	3.0	2.6
不詳	-	-	-	-	-

平成30年の人口10万対歯科医師数は59.0人で平成28年の60.7人に比べて1.7人減少した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあったが平成30年減少に転じた。全国平均(83.0人)と比較するとかなり低くなっている(図4-4)。

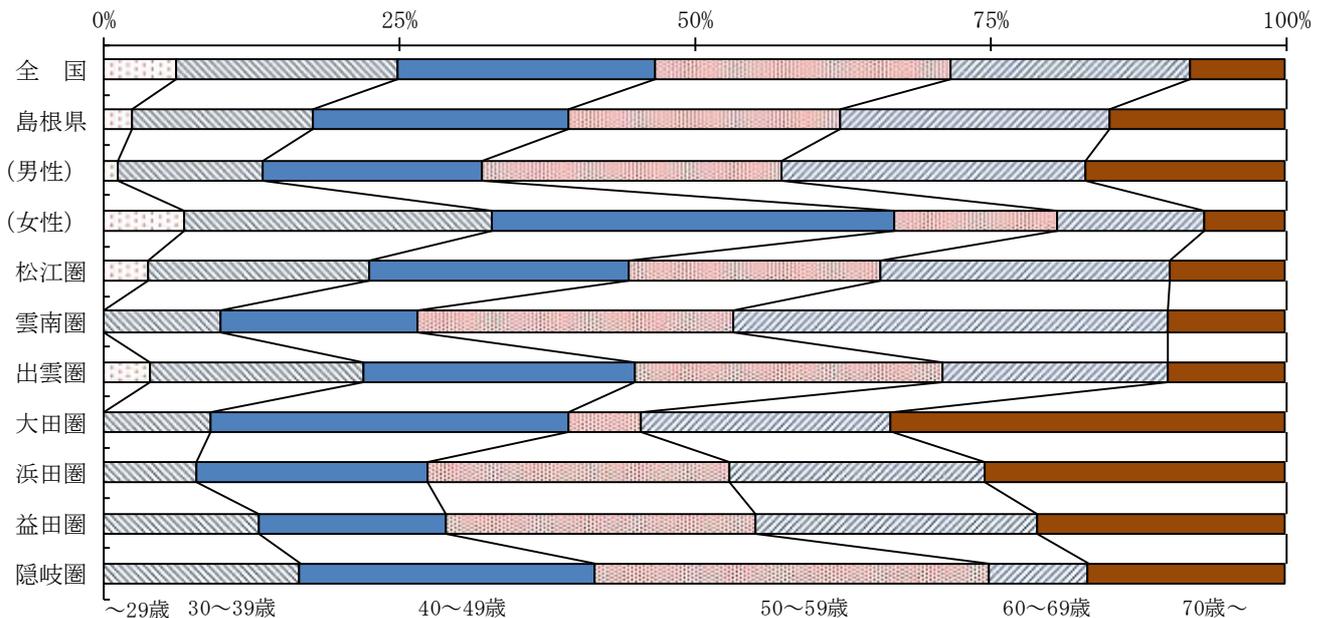
図4-4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～50歳代の占める割合が低く、60歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～40歳代が61.6%を占めており、男性は50歳以上が69.2%を占めている。

2次医療圏別にみると、雲南圏、大田圏、浜田圏、益田圏では60歳以上が4割を超えている。(図4-5)。

図4-5 歯科医師の年齢別割合



3 薬剤師

平成30年末現在の届出薬剤師数は1,377人であり、平成28年から61人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が861人（構成割合は62.5%）で、平成28年から67人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が321人（構成割合は23.3%）となっており、平成28年から4人減少している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の85.8%を占めた（表4-4）。

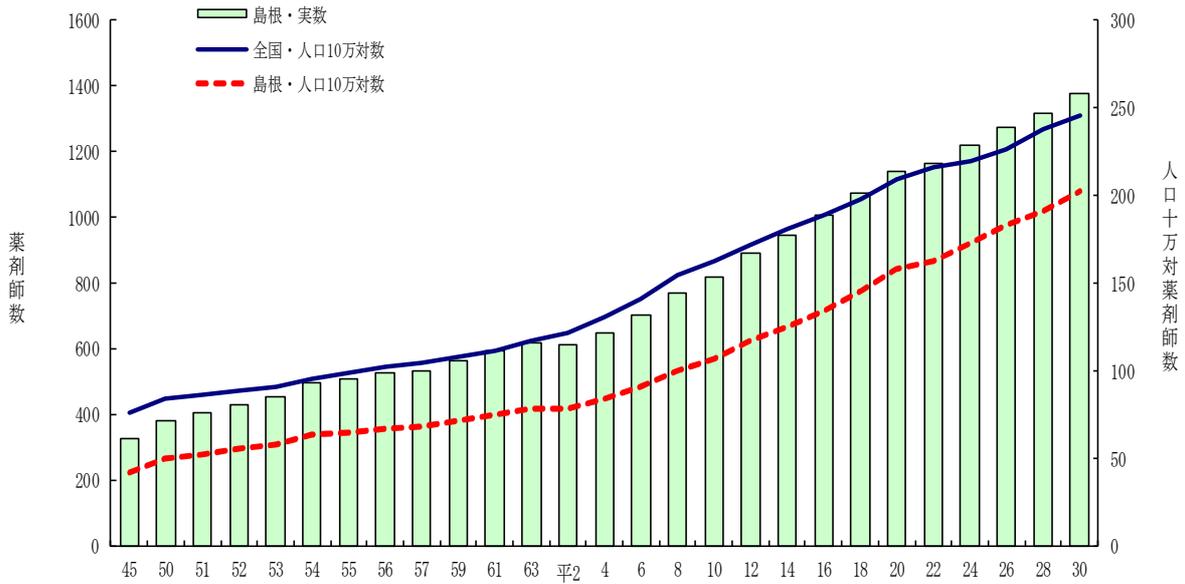
表4-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成30年	平成28年		平成30年	平成28年
総 数	1,377	1,316	61	100.0	100.0
薬局の従事者	861	794	67	62.5	60.3
薬局の開設者又は法人の代表者	113	110	3	8.2	8.4
薬局の勤務者	748	684	64	54.3	52.0
病院・診療所の従事者	321	325	△ 4	23.3	24.7
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	309	312	△ 3	22.4	23.7
病院・診療所でその他の業務に従事する者	12	13	△ 1	0.9	1.0
介護保険施設の従事者（注）	11	-	11	0.8	-
大学の従事者	10	9	1	0.7	0.7
大学の勤務者（研究・教育）	10	9	1	0.7	0.7
大学院生又は研究生	-	-	-	-	-
医薬品関係企業の従事者	77	83	△ 6	5.6	6.3
医薬品	24	29	△ 5	1.7	2.2
医薬品販売業（旧薬種商を含む）に従事する者	53	54	△ 1	3.8	4.1
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	23	23	0	1.7	1.7
その他の者	74	82	△ 8	5.4	6.2
その他の業務の従事者	16	26	△ 10	1.2	2.0
無職の者	58	56	2	4.2	4.3
不詳	-	-	-	-	-

（注）介護保険施設の従事者は平成30年調査から追加された分類項目

平成30年の人口10万対薬剤師数は202.5人で、平成28年から11.8人増加した。年次推移をみると年々上昇しており、平成30年は200人を上回ったもの、全国平均（246.2人）と比べるとかなり低くなっている（図4-6）。

図 4-6 人口 10 万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは 30 歳～39 歳の 29.3%、ついで 40 歳～49 歳の 19.7%、60 歳～69 歳の 15.5%となっている。

2 次医療圏別にみると、出雲圏は 20 歳～30 歳代で 50.4%を占めており、隠岐圏では 60 歳以上の占める割合が 47.6%となっている（図 4-7）。

図 4-7 薬剤師の年齢別割合

